

カ。ラ。ク。モ。介。ノ。厩。也。ガ。ラ。ク。モ。介。ハ。一。名。コ。マ。ノ。ツ。メ。勢。州。同。海。濱。ニ。甚。多。シ。○
下

〔貝盡浦之錦上〕酢介すわかい

厩也ふたなり。これ螺類の介の厩なり、黒きあり、白くされたるあり、皿に酸を入れはなてばはしる、諸方に甚だ多し、もろこしには得がたしと云り、本草に云、郎君子相思子是なり、

〔徒然草上〕甲香はほら貝のやうなるが、ちいさくて口のほどのほそながにして、出たる貝のふた

なり、武藏國金澤といふうらにありしを、所の者はへなたりと申侍るとぞいひし、

〔類聚雜要抄四〕甲香漬美酒、經一宿取出、削去內外、更煎甘草、煎塗甲香、燥火令色黃、但於甘草煎、以春篩之、燥甲宜蜜、無蜜用甘草煎、不宜

〔薰集類抄下〕甲香 一名流螺、南州異物志云、可合衆香、燒之、便益芳、獨燒之則臭、

〔康頼本草下〕蟲魚部上品、眞珠 味寒無毒、和波末、久利、乃太末、圖經論見之、

〔伊呂波字類抄疊字〕眞珠

〔本朝食鑑介〕饅中 略

集解、○中 饅、腸有眞珠、不似蛤蚌、色青白、明瑩、本邦入藥、以饅珠爲上、蛤、蜆、次之、未識以蚌、珠爲眞也、然本朝饅珠者、至寶之一、而有、大如豆粒、梅子者、以爲小珠、與輕粉、燈心、同收、盒中、則日久必長、贅出

數子、以成肥大、此亦一奇也、○中 略

淺蜆、○中 略

集解、○中 腸中多小珠、而色瑩白、海俗采之、送于藥肆市中、多亂眞珠、然入藥用亦不惡、惟功用劣矣、○中 略

蚌、○中 訓、奈、加、他、加、比、

集解、○中 凡本邦之人、知有饅、蛤、淺蜆之珠、而采爲眞珠、誇于藥肆、然未知蚌、珠之貴、是不類多之故乎、

略

略

略

略